

1 単元名 30しゅるいのしぜんの世界 「み近なしぜんの形・色」

2 育てたい力

【知識及び技能】	【思考力, 判断力, 表現力等】	【学びに向かう力, 人間性等】
<p>身近な自然の形や色を見るとき の感覚や行為を通して、形の感じ、 色の感じ、それらの組み合わせによ る感じ、色の明るさなどが分かる。 (知識)</p> <p>水彩絵の具を適切に扱うととも に、ペンなどについての経験を生か し、手や体全体を十分に働かせ、表 したいことに合わせて表し方を工 夫して表す。(技能)</p>	<p>集めた石や葉、つくった色によっ て感じたこと、想像したことから、 表したいことを見つけ、形や色、材 料などを生かしながら、どのように 表すかについて考える。 (発想や構想)</p> <p>身近な自然や自分たちの作品の 造形的なよさや面白さ、表したいこ と、いろいろな表し方などについ て、感じ取ったり考えたりし、自分 の見方や感じ方を広げる。(鑑賞)</p>	<p>進んで石や葉を集めて、身近な 自然の形や面白さを感じ取る学 習活動に取り組み、つくり出す喜 びを味わうとともに、形や色など に関わり楽しく豊かな生活を創 造しようとする。</p>

3 子供の実態

事前のアンケートでは、全員が「図工が好き」「まあまあ好き」と回答しており、図画工作科の授業に意欲的に取り組んでいる。子供たちは、これまでの学習で、色を混ぜ合わせることでいろいろな色がつくれることや、同じ色の中にもたくさんの階調があること、形や色に着目してイメージをもつことを学んできた。また、1学期の「私の6月の絵」では、身近な生活に目を向け、感じたことから表すことを学習してきた。

しかしながら、実在するものを描いたり、目の前にあるものをうつしたりするために適切な色をつくることはできるものの、イメージを膨らませて自分で描くものを決めたり、感情など色形のないものからデザインや構造を考えたりすることに難しさを感じる子供が多かった。

また、出来上がった作品を鑑賞する活動を通して、友達の作品の良さや面白さを認め合うことができるようになってきた。一方、自分の作品や友達の作品にじっくりと向き合い、それぞれの特徴を比べたり、作者の表したかったことやそのための工夫に目を向けたりする意識は低いと感じる。事前アンケートの結果^{※1}では、自分や友達の作品の良さを見付けられると答えた子供は8割以上だったが、友達の作品の良いところを自分の作品に取り入れることがあるかという質問に「よくある」「たまにある」と答えた児童は6割に満たなかった。互いの良さを取り入れ合うことで、より良いものにしようという意識が低いという実態がある。

さらに、自然や色を見て感じたり、想像したりする力を確認するためのレディネステスト^{※2}では、「緑がきれいでも夏っぽい感じ」「色が暗くて不気味な感じ」など、色や形から想像を広げられる子から、「1本の木」など事実のみを捉える子や「きれい」など漠然とした印象で答える子までおり、自然や色を見て感じたり、想像したりする力に差があることが分かった。

4 単元について

本単元では、集めた自然物やつくった色によって感じたこと、想像したことから、表したいことを見つけ、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えることができるようにしたい。そのために、単元構想を以下のように工夫する。

① 石や葉との出合わせ方の工夫

石や葉はあまりに身近な存在であるため、そのものからイメージを膨らませること自体に難しさを覚える子供が多いことが予想される。石や葉に実際に触ってみたり、それらを使って遊んでみたりすることで、普段は感じなかったそれらの触感に気付いたり、活動を通してわくわく感を味わわせたりすることで「自然物から感じたこと、想像したことを表したい」という思いをもたせたい。

② 石や葉の要素(形、色、葉脈などの模様)に着目させるための工夫

2年生までの生活科とは異なり、感覚を働かせながら自然物を見させるために、複数の石や葉を用い、形、色、葉脈などの模様に着目させてグルーピングさせたり並べ替えたりさせる。その中で、お気に入りのものを選ぶ活動を通して、形の感じや色の感じから想像を膨らませる。

③ 鑑賞の工夫

本単元では、友達の作品の鑑賞だけでなく、自分の中での鑑賞(自分の作品との対話)や自然物の鑑賞を取り入れ、鑑賞と表現が行き来することで、自然や色を見て感じたり、想像したりする力を高め

させたい。

単元の初めには、石から発想を広げた作品を作成し、友達と比べる活動を行う。それにより、対象物をよく観察し、形や色などを捉え、自分なりにイメージをもったり、友達と感じ方や感じたことを表す表現の仕方が違うことを実感させたりして、主体的によさや美しさを感じ取ったり考えさせたりしたい。

本時では、A：葉をよく見ること、B：自分の作品との対話、C：友達の表現方法から学ぶことなど、様々な形の鑑賞が自然に行われることにより、見方・考え方が広がることをねらう。Aは、葉から得たイメージを色や形に表すために、自分が選んだお気に入りの1枚の葉をよく見たり感じたりすることである。Bでは、できた色などの表現が自分の表したかったものに合っているか考える。Cは、友達の選んだ葉っぱやその表し方に触れることで、友達と自然のよさや表現の面白さを共有する。形や色、材料を生かした友達の表現に触れることで、自分の表したいことに合った表現の仕方を深めさせたい。

さらに、鑑賞から得たことをもとに発想を広げさせるため、本時でつくった作品を生かして大きな作品をつくる活動を行う。本時では10～15cmくらいのカードで制作を行うが、6・7時では同じようなカードを複数作成し並べる子や、そのカードを画用紙の上に置いてカードの先に世界を広げる子もいるだろう。

単元末では、完成した作品を鑑賞する活動を行う。自分や友達の作品について、どのように感じたのか、その根拠や理由を色や形などを基に記入したり、話し合ったり、気持ちを振り返って書いたりすることで子供自身が対象に働きかけながら見つけたよさや面白さを気付くことができるようにする。

5 単元の評価規準

<p>【知識・技能】 身近な自然の形や色を見るとき の感覚や行為を通して、形の感じ、 色の感じ、それらの組み合わせによ る感じ、色の明るさなどが分かって いる。 水彩絵の具を適切に扱うとともに、 ペンなどについての経験を生かし、 手や体全体を十分に働かせ、表し たいことに合わせて表し方を工夫 して表している。</p>	<p>【思考・判断・表現】 形の感じ、色の感じ、それらの組 み合わせによる感じ、色の明るさな どを基に、自分のイメージをもちな がら、集めた葉や石、つくった色か ら感じたこと、想像したことから、 表したいことを見つけ、形や色、材 料などを生かしながら、どのように 表すかについて考えている。 身近な自然や自分たちの作品の 造形的なよさや面白さ、表したいこ と、いろいろな表し方などについ て、感じ取ったり考えたりし、自 分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 進んで石や葉を集め、つくりだ す喜びを味わうとともに、身近な 自然の形や色の面白さを感じ取る 学習活動に取り組もうとしている。</p>
--	--	---

6 単元計画（8時間）

時	学習内容	□評価 ○指導上の留意点
1	石を使った表現作品と石のマッチングクイズをする。石を集める。	<p>□身近な自然の形や色を見るときに感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどが分かる。（知）</p> <p>○触った感じ、大きさ、形、模様、角度による印象の違いなどに気付かせ、「明るい感じ」「優しいイメージ」などそれらのイメージをもたせる。また、グループで活動をする中で、イメージをもつのが難しい子供も発想を広げられるようにする。</p> <p>○正解・不正解にこだわらず、なぜそう考えたのか、どこに着目したのかを共有させる。</p>
2	石から感じたことをカードに表現し、友人と交流する。	<p>□手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。（知）</p> <p>○対象物→想像→表現というつながりを意識させるために、石から感じるイメージやそれを表す方法を、段階を追って全体で共有する。</p> <p>○表したいことに合った表現方法を選択できるように絵の具、ペン、クレヨンなどを用意しておく。</p> <p>○自分と友達の感じ方や着目した点の違いに気付かせ、互いの良さを見つけ合うようにさせる。</p>
3	葉を使った体験活動をする。葉を集める。活動の概要を知る。	<p>□進んで石や葉を集め、身近な自然の形や面白さを感じ取る学習活動に取り組もうとしている。（主）</p> <p>○葉の感触に気付かせたり、葉からイメージをもたせたりするために、葉を使った活動を楽しませる。</p>
4	葉の形や色の特徴について気付いたことを話し合う。	<p>□身近な自然の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。（思）</p> <p>○葉の要素（色・形・葉脈など）に着目させ、そこから発想を膨らませるために、葉をグルーピングさせたり、並べ替えたりさせる。</p>
5 （本時）	葉っぱから感じたことを表す方法を考えながら、葉っぱカードを作る。	<p>□形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、集めた葉、つくった色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見つけ、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。（思）</p> <p>○葉から発想が膨らまない児童には、教師から「明るい」「暗い」「おいしそう」「楽しい感じ」などの声を掛け、視点を一緒に見つける。</p> <p>○大きさの違う小さな画用紙を何枚か用意し、子供に選ばせる。</p>
6 7	葉っぱカードを活用し、世界を広げる。	<p>□形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、集めた葉、つくった色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見つけ、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。（思）</p> <p>○葉っぱカードを複数作成し、意図をもって並べたり、1枚のカードからさらに大きな用紙に広げたりする。</p>
8	自分や友人の作品を見て、良さや面白さを見つける。	<p>□身近な自然の形や面白さを感じ取る学習活動に取り組もうとしている。（主）</p> <p>○作品カード、鑑賞カードを用意し、自分の作品を振り返った気持ちや、友達の作品から感じたことについて書く視点を与える。</p>